

## 第 64 回国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 特賞

渋谷教育学園幕張中学校 3年

伊藤 華玲

### 課題①

よりよい未来に向けてあなただったら国連の場で何を訴えたいか。

### 副題

ミャンマーの子供たちを忘れないで

コンコン。車の窓を叩く音に外を見ると、四つの小さな瞳がこちらを覗き込んでいた。十歳ぐらいの男の子と、もっと小さな女の子が、手をつなぎ、暗闇の中に立っている。

家族と外食をした帰り道、車が家の近くの信号で止まると、必ずこの二人と出会う。助手席のお父さんが窓を開けて、男の子の手に二百チャット札を握らせた。「チェズーディンバーデー。」お父さんはミャンマー語でお礼を言い、白いジャスミンの花飾りを受け取った。二人はニコッと笑うと、また車の間を縫って、花を売りに走って行った。

これは、私が小学校三年生まで過ごしたヤンゴンで見た光景だ。二人の必死なまなざしと、裸足の細い脚、遠くにけだるそうに座っていた母親の顔が目には焼き付いている。

ヤンゴンでは他にも、働いている子供をよく見かけた。炎天下の路上でマンゴーを売る少女や市場で物を運ぶ少年。ひすい鉱山では、多くの子供が危険な労働をしていると聞いた。どれもミャンマーでは当たり前のことだった。裸足でけがをしないかな。私よりいくつ年上なんだろう。彼らが通るたび、少し気まずく思いながらも心配でならなかった。

私が帰国して二年後、ミャンマーで軍によるクーデターが起きた。朝の電車の中、携帯の画面で記事を見た瞬間に体中に走った衝撃は忘れられない。その後、児童労働をめぐる状況は急激に悪化した。政府の混乱で、私が通っていた学校を含む、多くの学校が閉鎖された。国内避難民は三百万人を超え、その三分の一を占める子供の多くが、生活のために働いている。今年二月には徴兵制が始まり、徴兵を避ける手段として子供を働かせる親が更に増えた。

私はそれらの記事を一つ一つ切り抜いてスクラップブックに貼りながら、どうしたらこの問題を解決できるのかを必死に考えた。ミャンマーの児童労働の主な原因は、貧困と政情不安だ。子供を働かせなければならぬ状況を変えない限り、児童労働はなくなる。事態は、ミャンマー国内の力では対処できないほどに深刻だ。今こそ、国際社会による、より積極的な支援の手が必要だと思う。

それなのに、最近の報道ではミャンマーに関する記事が激減している。クーデターのショックが薄れた後、国際社会は彼らのことを忘れてしまっているかのようにも見える。私はこのことに、ものすごく問題意識を感じる。

だから、もし私が国連に訴える機会を与えられたら、ミャンマーの子供たちについて訴える。ほとんどの人が一瞬眉をひそめて通り過ぎるニュースの裏に、百二十万人以上の、私たちと同じ子供の苦しみがあることを。彼らのことを忘れてはいけないことを。

今、私は、問題の解決に向けて、自分のできることに取り組んでいる。今年の夏は、東京のミャンマー祭りの支援団体のブースで売り子をした。その団体は、貧困地域の女性に裁縫を教え、その作品を売る活動をしている。家庭に収入を与えることは、児童労働の防止につながる。また、学校の授業でもミャンマーの児童労働について発表した。中学生ができることは限られるが、将来はより多くの人を巻き込み、支援の輪を広げていきたい。

今年六月の世界児童労働デーに、世界労働機関はミャンマーの児童労働根絶に向けた声明を発表した。声明は、ヤンゴンを含む児童労働の深刻な地域での意識向上や技能・生活支援を通じ、問題の解決を目指している。この声明に続いて、日本で、世界で、この問題に対する関心を高めていく必要がある。人々の注目が集まり、声が積み重なることが、彼らを救う第一歩となるのだから。

コンコン。闇の中で窓を叩いていた、あの小さな手が、鉛筆を持って学校に通える日が来るように。そのために私も勇気を持って、この大きな問題の解決につながる扉を、力いっぱい叩いていきたい。